

プライマリ・ケア医ができる COVID-19 後遺症研究：当院総診での取り組み

2021年2月、日本でも COVID-19 が流行し始めて1年ほど経ったころ、医療現場では COVID-19 後遺症が問題となり始めていた。原因不明で治療法も不明、かつ複数の症状を有し、未分化な健康問題な代表格だった。我々総合診療科は、プライマリ・ケア医としてできることを考え、COVID-19 後遺症の専門外来である「コロナ・アフターケア外来」を開設し、その医療問題に取り組むことにした。同時に、その不確性の高い COVID-19 後遺症を少しでも明らかにしようと臨床研究を開始した。3年半少しで、「コロナ・アフターケア外来」には1000人以上の患者が来院し、COVID-19 後遺症関連の原著論文は19つ、AMED (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)の委託研究2件を含む7件の研究助成金獲得に寄与した。本発表では、プライマリ・ケア医としてできる臨床実践と研究、そのプロセスを COVID-19 後遺症を切り口に発表する。